

令和4年度第1回南砺市総合教育会議 議事録（要点記録）

- 1 日 時 令和4年8月29日（月）午前10時00分～午前11時20分
- 2 場 所 南砺市役所庁 302会議室
- 3 出席者 構成員 南砺市長 田中 幹夫 教育長 松本 謙一
教育長職務代理者 竹部 俊恵 教育委員 高坂 真理
教育委員 林 紀孝 教育委員（欠席） 中川 日登美
事務局 総合政策部長 川森 純一 教育部長 村上 紀道
教育部次長生涯学習スポーツ課長 鶴野 幸男 教育総務課長 氏家 智伸
こども課長 溝口 早苗 高校総体スキー推進室長 平本 光一
教育総務課副参事 吉尾 徹 教育総務課主幹 金谷 諭
教育総務課主幹 保市のり子 教育総務課副主幹 鉢呂 清明
- 4 傍聴者 報道1社
- 5 会議の概要

（1）開会あいさつ（田中市長）

令和4年度第1回目となる南砺市総合教育会議を開催したところ、教育委員の皆さまには大変お忙しい中ご参集いただき心から感謝申し上げます。また日頃から南砺市の教育行政につきましてさまざまなご指導を賜っておりますことを重ねて厚く御礼申し上げます。

現在、新型コロナウイルス感染の第7波により非常に速いスピードで感染が広がっている状況で、南砺市内においても1日あたりの感染者数が150人にのぼった日もあり、南砺市民病院や南砺中央病院において発熱外来が非常に混雑していると聞き心配をしております。2学期が始まると、こども達の行動範囲が広がり接触機会が多くなることから、感染者がこれ以上増えないことを望んでおります。従来通りの感染予防方法をしっかり確認すること、その場に応じた適切な判断の必要性を、各学校にしっかりお知らせしていかなければならないと思っております。

今回、将来の学校のあり方の検討については、2年前倒しをして検討委員会設立の準備を進めております。また、来年4月から特認校制度を導入する予定としており、通学区域に定める学校への就学を基本としながらも、イレギュラーな形で校区外の学校に通っている現状に対する制度の適正化が今回の主な取り組みでもあります。各学校の良さをその校区のこどもや親に理解していただくために、現在作成を進めている学校プロモーションビデオで各学校の特色をしっかりと伝えていくことが重要であると思っております。

本日は、こども課のネットワーク強化によるこども子育て支援の充実や、スマイルなんとの設置、なんと Hug 機能の連携についても報告をさせていただきます。これらのひとつひとつが南砺市教育振興基本計画の基本理念でもあります「未来を切り開く南砺のひとづくり」につながっていくよう、教育委員の皆さまと課題や進むべき方向性を共有させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（2）協議事項

① 特認校制度の導入について

○竹部 教育委員 就学制度は自分の校区の学校で学ぶことを基本としているが、保護者

の間で校区にかかわらず自由に学校を選ぶことができるようになるという認識が広がっていると聞いており、目的が正しく伝わっていないと思う。まず保護者に基本的なことから伝え、その上でこの特認校制度が活用されることで南砺市らしい教育が展開されていく説明が大切である。説明する際に、資料に分かりやすく表を加えればよい。

○氏家教育総務課長 保護者の間に自由に学校を選べるという誤解があることは認識しているので、正しく理解していただけるよう周知を図る。また、ご意見いただいた表についても検討し、分かりやすい説明に努める。

○田 中 市 長 部活動の拠点校化を同時に進めていく中で、部活動に重点を置いて説明をすると、自由に学校を選べると捉えられてしまうので、整理をしながら地元や PTA の皆さんに説明する必要がある。また、コミュニティスクールを同時に進めながら、地域住民が自分達の校区の学校に参画をして地域で学校を作っていくことを進めていけばよい。PTA や学校後援会などが学校づくりに加わっていけば、地元の学校への愛情が深まると思うので今後の検討が必要である。

② 南砺市立学校プロモーションビデオの公開について

○林 教 育 委 員 南砺つばき学舎のプロモーションビデオを視聴し、大変すばらしいと思った。部活動を特色としている中学校もあるが、プロモーションビデオにおける部活動の紹介は各学校に任せているのか。

○氏家教育総務課長 紹介内容は自由としているので、部活動について紹介している学校もある。部活動の拠点校化がまだ決まっていないので、現在活動している部活動を紹介している。

○高 坂 教 育 委 員 プロモーションビデオのリンク先をホームページに掲載するとあるが、全ての学校が順に流れるのか、見たい学校を選んで学校ごとに視聴することはできないのか。

○氏家教育総務課長 動画は学校別となっており、見たい学校を選んで視聴することができる。現在、学校一覧のリーフレットを作成中であり、学校ごとの QR コードを掲載し、コードを読み取ることでそれぞれの学校のビデオが視聴できるようにする予定である。

③ 南砺市立学校のあり方検討委員会及び利賀地域義務教育学校設置協議会の設置について

○田 中 市 長 利賀地域について、義務教育学校設置協議会の検討に南砺つばき学舎と同じように書いてあるが、山村留学の今後の方針が南砺つばき学舎とは大きく異なる点であり、利賀地域の特色をしっかりと入れていただきたい。山村留学のこども達は制服等を購入することになるが、制服や運動服については検討事項の一つではないか。

○ 松 本 教 育 長 利賀地域は一人一人の個を大切に教育を行うことに重点を置くこととし、基本案としては、制服等を廃止する方向で考えている。

- 高坂教育委員 福光南部小学校区の保護者から、どの中学校に行くことになるのか不安に思っているという声を多く聞いている。学校のあり方検討委員会でしっかり検討してほしい。
- 田中市長 福光南部小学校下においては、中学校区が二つに分かれるという大きな問題がある。その中学校に進学するならば、小学校からその小学校に行けばよいのではないかという話が広がるのが予想されるが、地元の方が福光南部小学校を大切に思っておられるので、校区の問題についてうまくいくとよいと思っている。特認校制度で同じ小学校で学んだ同級生と一緒に進学できる制度となり、その先に学校の統合の議論が出てくるものと思っている。
- 村上教育部長 議論を深めるにあたり、東太美地域づくり協議会から市長あてに具体的な要望書が提出されており、そのことも委員の皆さまに説明しながら議論をスタートしていきたい。
- 田中市長 この要望書は、福光地域の中学校の統合に対する初めての地域からの要望であり、検討委員会に提示をして意見や提言があるということを踏まえて検討をスタートしていただきたい。

④ ネットワーク強化による子ども・子育て支援の充実について

- 田中市長 現在、なんと Hug はどのくらいダウンロードされているのか。
- 溝口こども課長 昨年度末で約1,000人がダウンロードしており、現在約1,500人がダウンロードをしている。
- 田中市長 今のところ情報発信が多いが、利用者の交流やコミュニケーションの活性化が図られるとよい。
- 溝口こども課長 これまでは子育て世代の間の交流が増えることを期待していたが、なかなか盛り上がりせず、最近は子育て支援センター等からの困りごとへの問いかけに対して反応があることが多い。
- 竹部教育委員 保護者アプリケーションソフトのコードモンに、心配ごとが相談できる機能はあるのか。
- 溝口こども課長 コドモンには1対1で保育園とやり取りする機能があるので、保育園の担任の先生とやり取りすることは可能である。
- 竹部教育委員 11ページのチラシについて、今後配布予定のチラシなのか。
- 溝口こども課長 保育園についてはコードモンですでにチラシの内容を配信している。小中学校については夏休み前にこのチラシを保護者向けとして配布した。また、児童生徒向けに学校を通じてカードタイプのものを配布しており、何か困ったことがあれば相談してほしいこと、身近な信頼できる大人にできるだけ相談してほしいことを記載している。
- 竹部教育委員 このチラシは高等学校にも配布しているのか。
- 溝口こども課長 高等学校には配布していないが、こども課へ相談にこられた方や現況届を提出されたひとり親の方には配布している。

- 高坂教育委員　なんと Hug とスマイルなんとの相談員は、同じ相談員が対応するのか、それとも別の方なのか。
- 溝口こども課長　別である。なんと Hug はこども課に所属している保健師が対応しており、こども家庭相談室は、パート職員である相談員やこども課に所属している職員が対応している。同じ課であるので、それぞれ情報を共有しながら対応している。
- 田中市長　アドバイスをする相談員のレベルによって、相談後に大きな違いが生じてくるので、相談員のレベルを高めていくことが大切である。初めてのケースや対応が難しいケースもあるので、アドバイスをする相談員が相談できる仕組みを作っておいた方がよい。また、そのような相談の対応内容をしっかり記録していくことも大切である。以前に比べて身近な人に相談しやすい雰囲気がなくなってきたことから、この仕組みがうまく機能すれば安心して子育てができると思う。
- 竹部教育委員　相談員について、スーパーバイザーを設けておけば相談対応も円滑にできると思う。子育てや育児についての相談に対する対応はすで充実していると思うが、中学生、高校生からの相談にしっかり対応するために、相談員が相談できるスーパーバイザーを設けるとよい。
- 田中市長　相談の対象年齢が0歳から18歳までと幅が広いので、それぞれの相談に適切に対応するために、保健師だけでなく、保育士や教師など幅広くアドバイザーを配置し、それぞれの得意不得意の分野を互いにカバーできる体制を整えておくとよい。また、対応した相談事例をしっかり記録して相談員の間で共有してほしい。

⑤ その他

- 林教育委員　教師や保育士が職務上の悩みがある時に、同じ職場環境にいる同僚等には相談しにくいことがある、という声を聞いている。こどもはもとより、教師や保育士もまた地域の宝であると思うので、それらの皆さんが悩みを持ちながらも元気に働くために、地域で支えていく仕組みが必要だと思う。南砺市の学校で働いてよかった、これから南砺市の学校で働いてみたいと教師が思えるような地域づくりに取り組んでいくとよい。
- 竹部教育委員　スクールカウンセラーにより、教師を含めたカウンセリングを進めてほしい。また、各学校の生徒指導主事が学校内における教育相談の中心的存在となってほしい。保育園においても保育士の悩みを相談できるスーパーバイザーが必要ではないかと思う。

(3) 閉会あいさつ（教育長）

本日はお忙しい中ご参加いただきありがとうございます。本日はいただいたご意見の具体化に向けて今後しっかり考えていきたいと思っております。本日はありがとうございました。